



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2779 号 2015.12.19 発行

介護者・高齢者、働きやすく 厚労省が雇用保険改革案

日本経済新聞 2015年12月19日

厚生労働省は18日、雇用保険制度の改革案をまとめた。介護休業を取る人への給付金を引き上げるほか、65歳以上の新規加入を認めることなどを盛り込んだ。現役世代の介護離職を防ぎ、高齢者の就業を促進するのが狙い。政府が目標に掲げる「一億総活躍社会」の実現に向けて、働きやすい環境を整える。

労働政策審議会（厚労相の諮問機関）雇用保険部会が雇用保険制度改革の素案を大筋で了承した。厚労省は改革案を基に雇用保険法の改正案をまとめ、2016年の通常国会への提出を目指す。

制度改革の柱である介護休業給付は現在、休業前の賃金の40%を給付する仕組み。これを育児休業給付と同水準の67%に引き上げる。

介護休業給付は配偶者や両親などの介護が必要になり、休職した場合に支給する。通算93日が限度だ。今は介護休業は1つの症状につき1回ずつしか取れず、使い勝手が悪い。3回まで分割して取れるようにする制度改革も合わせて実施する。

高齢化に伴い、家族の介護や看護を理由に離職や転職する人は年間で約10万人にのぼるが、介護休業給付をもらう人は14年度に9600人とどまっている。平均受給額も月9万3918円と少額だ。より手厚い失業手当をもらうために、休職よりも仕事を辞めることを選ぶ人がいるとみられる。厚労省は介護休業時の所得保障を厚くすることで、前の職場に復帰しやすくする。

もう1つの柱は65歳以上の高齢者に雇用保険への新規加入を認める点だ。失業した場合は勤め先にもらっていた賃金の最大50日分を一時金として払う。その場合も年金の減額はしない。

今の制度では65歳以上で、勤め先が変わると雇用保険から外れるようになっている。勤め先が変わらない場合だけ、雇用保険の加入が続く。65歳以上で新たに仕事を探す人は増えており、制度改革で不公平感をなくす。中小企業の負担が増えないよう、当面は労使が払う雇用保険料を免除する方針だ。

厚労省によると、65歳以上の新規求人数は14年度が46万人にのぼる。前年度に比べ11%増えており、新規求人数全体の8%を占める。

厚労省は一連の改革にあわせて失業給付に充てる保険料率を引き下げることでも決めた。いまの年収の1%から0.2ポイント引き下げ、同0.8%にする。労使合わせて3400億円の負担減になる。年収500万円の社員が納める保険料は年5000円減る計算だ。

雇用情勢の改善で、失業給付は減少している。積立金は6兆円を超え、過去最大規模となっており4年ぶりの引き下げを決めた。

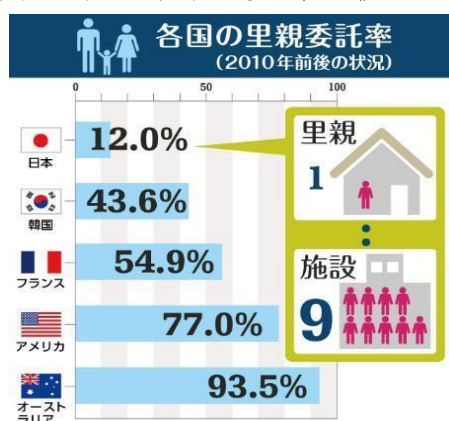
子供の保護、鍵は里親 虐待、貧困...施設偏重を是正 共同通信 2015年12月19日

虐待や育児放棄、死別などで実の親と暮らせない子供が増えている。受け入れ先は大別

して施設か里親。日本はその割合が 9 対 1 で、里親委託が 5～9 割の諸外国と比べ「施設偏重」だ。厚生労働省は 2011 年「温かい愛情のある家庭環境」が必要との観点から里親委託優先に方針転換。ただ子供は虐待による心の傷や発達障害など養育に困難が伴うケースも多く里親数は伸び悩む。

▽大家族

東京都荒川区の下町。里親歴 19 年の若狭一廣さん (52)、佐和子さん (47) 夫妻宅は 15 人が暮らす大所帯だ。里子 6 人、近所の母子家庭の子供 1 人、里子としての養育期間 (原則 18 歳まで) 終了後も住み続ける 20 歳代の 3 人、それに大学生の実子 2 人と一廣さんの



母親。

厚生労働省の資料から若狭家の食事風景=9月 (一部人物の顔を画像加工しています)



通常、里子は 1 人か 2 人のケースが多いが、若狭さんは最初に 3 人兄弟を引き受けたこともあり、いつも数人がいた。これまで面倒を見た

子供たちは 30 人以上に上る。

子供たちは 30 人以上に上る。

毎日の夕食には 10 人前後が集う大家族。しかし内実は単純ではない。自殺をほのめかす子、自閉症で部屋にこもりきりの子、虚言癖や盗癖があり学校や近所でトラブルを起こす子...。厳しい生い立ちを背負った子供と向き合い育てていく苦労は並大抵ではない。

▽親がいるのに...

里親制度は 1948 年に設けられた。当時は戦争孤児が多く登録里親数は一時約 2 万人、里子も 9 千人以上に達した。しかし 60 年代後半からは児童養護施設の拡充などで減少。90 年代以降は登録里親約 7 千人、里子は 2 千人台になった。

一方、保護を必要とする子供は増加。厚生労働省などによると、2000 年以降で約 2 割増え現在 4 万 8 千人程度。同省は「かつては親がいないというケースが多かったが、今は親がいるのに保護が必要な場合が多い。虐待や貧困といった理由が増えている」と説明した。

子供にとっては家庭での養育が好ましく厚労省は里親委託率を将来的には 3～4 割にした考えだ。里子の大学進学率は施設の子供の 2 倍以上というデータもある。11 年以降、委託率は 1 割から 1・5 割程度に、登録里親数は 8% 程度増えた。ただ東京養育家庭の会の青葉紘宇理事長は「伸び率が低いのがつらいところ」と話す。

▽サポート

一廣さんは、里子の問題行動などで警察沙汰や裁判になっても施設と異なり里親には支援態勢が整っていないと指摘。「トラブルがもとで里親としての資格ばかりか社会的信用や財産まで失うリスクがある」という。佐和子さんは「子育てに失敗はつきものなのに里子の場合それを次に生かせる仕組みになっていない」と話した。青葉理事長は「里親用の相談員の設置などストレスに直面する里親、特にお母さんへのサポート拡充が必要だ」と訴えた。(共同通信=松村圭)

2 歳児の秘密基地が優勝 大人顔負けの出来

神戸新聞 2015 年 12 月 19 日

兵庫県小野市中谷町、みやま保育園の園児らの作品が、同市の NPO 法人「つみっくらぶ」が 11 月に開いた「第 1 回秘密基地コンテスト」で「学生部門」の 1 位に輝いた。2 歳児と保護者、保育士らが段ボールで作成、大学、高校生の作品を上回った。同園は 1

7日、賞金1万円と参加賞の米10キロを市社会福祉協議会に預託した。

コンテストは、プロ建築家▽学生▽ファミリーの3部門で作品を募集。応募のあった29点を11月3～22日に高砂市荒井町の「県民交流広場よってこ村・荒井」で展示し、入場者が投票した。



2歳児と保護者、保育士らが段ボールで作った秘密基地＝小野市中谷町

同園では10月の参観日に2歳児8人と保護者が段ボールを

1箱ずつ飾り付けた。保育士らが8箱をつなぎ合わせた作品を応募した。



作品は箱の中をくぐったり、小窓から顔をのぞかせたりでき、会場を訪れた幼い子どもと保護者に人気だったという。兵庫大や東播工業高（ともに加古川市）、明石高専（明石市）などが同部門に力作を出展した中、最も多く票を集めた。

小松淳子園長は「子どもたちの遊びが園外で評価されたことがうれしい」と喜んだ。賞金は善意銀行に預託し、福祉推進に役立てられる。米は高齢者や障害者向け給食サービスで使われる。（吉田敦史）

介護福祉士の育成 活発議論

読売新聞 2015年12月19日

意見を述べ合う参加者ら＝中根新太郎撮影

桑名市で17日に始まった「第22回 日本介護福祉士会全国大会 in みえ」（公益社団法人・日本介護福祉士会主催、一般社団法人・県介護福祉士会共催）は最終日の18日、専門家らによる討論会や講演会などが開かれ、介護福祉士のキャリアアップや育成などについて、活発な意見が交わされた。2日間の日程が終了し、来場者からは「貴重な意見を今後の参考にしたい」などの声が出ていた。

（山下智寛）

市民会館には昨日に続き約750人が訪れた。「介護福祉士として何を目指し、何を発信するのか！～介護離職ゼロの実現のために～」と題した討論会では、司会を務めた高齢者総合福祉施設「アザレアンさなだ」（長野県）の宮島渡・総合施設長を含む計5人が、介護福祉士のキャリアアップなどについて議論した。

介護分野では実務経験を積み、質の高いサービスを提供できる介護福祉士を「認定介護福祉士」とする仕組み作りが進んでおり、日本介護福祉士会の石橋真二会長は「核となる人材の養成が必要。専門職としての質を高め、利用者の生活の質の向上につなげたい」と述べた。

講演会では、県介護福祉士会の大田京子会長が三重県の取り組みを紹介し、定期的に介護相談会を開いていることや介護福祉士を養成する学校との連携を深めていることなどを説明。続いて講演した日本介護福祉士養成施設協会の大橋正行・東海北陸ブロック代表理事は、未来の介護福祉士を育てる立場から「介護福祉士一人一人が指導者になれるくらい質を高めてほしい。そうでなければ次の世代も育てられない」と訴えた。

来年の全国大会は大分県で開かれる予定で、大分県介護福祉士会の三浦晃史会長が「三重に負けないくらい結束を固め、皆さまをお迎えしたい」とあいさつし、大会を締めくくった。

来場した宮崎県介護福祉士会の前田薫会長（65）は「三重のような相談会は宮崎では



やっておらず参考になった。仕事のやりがいについては、介護福祉士にとって大きな課題。大会で聞いた話を今後に生かしたい」と話していた。

学童保育に入れない「待機児童」過去最多

NHK ニュース 2015年12月19日

親が仕事などから帰宅するまでの間、放課後の児童を預かる「学童保育」で、定員がいっぱいで利用できない「待機児童」はおよそ1万7000人と、これまでで最も多くなりました。



厚生労働省によりますと、ことしの5月1日の時点で、学童保育を利用している児童は102万4635人で、去年の同じ時期より8万8000人余り増え、これまでで最も多くなりました。

利用者が大幅に増えた背景には、今年度からスタートした子ども・子育て支援新制度で、学童保育の対象をこれまでのおおむね10歳未満から小学生全体に広げたことなどがあるとみられます。

学童保育を行う施設も2万2600か所余りと、前の年より500か所以上増えましたが、共働き家庭の増加などで、利用を希望しても定員がいっぱいで入れない待機児童は1万6941人と、去年より7000人近く増え、これまでで最も多くなりました。

待機児童が最も多かったのは東京都の3140人で、次いで埼玉県が1827人、千葉県が1302人、静岡県が972人、兵庫県が805人などと、主に都市部で多くなっています。

厚生労働省は、「児童を預かる時間も年々延びており、景気の回復で残業する保護者が増えているのではないかと。施設の整備を進め、待機児童の解消を図っていききたい」と話しています。

橋下氏と吉村氏 どこが違う？どこが似てる？ トップダウン型と協調型

産経新聞 2015年12月19日

| | | |
|--|-----------------------|---------------|
| 吉村洋文新市長 | 新旧大阪市長の共通点、相違点 | 橋下徹前市長 |
| | | |
| 40歳 | 市長就任年齢 | 42歳 |
| あり | 議員経験 | なし |
| なし | タレント経験 | あり |
| 協調型 | 政治手法 | トップダウン型 |
| 注：ラグビー経験、20代で司法試験に合格して弁護士、子たくさん(橋下氏7人、吉村氏3人) | | |

大阪市の橋下徹前市長の後継者、吉村洋文新市長の任期が19日スタートした。橋下氏が真夜中であってもメールで市幹部らに指示を飛ばす「トップダウン型」のリーダーだったのに対し、吉村氏は粘り強い対話で合意形成を目指していく「協調型」。橋下氏は意見の合わない場合は対決も辞さず議会や地域団体との摩擦が生じてきただけに、修正を図っているか吉村氏の手腕に注目が集まる。

「次の市長も同じ弁護士だが、僕と違ってしっかり議論を踏んでからメッセージを発するタイプだ」。橋下氏は18日午後、退任を前に市役所で市幹部との最後の会議に臨み、吉村氏をこう評した。

11月の市長選で、吉村氏は自らの政治手法を「話し合いで粘り強く合意形成をする」と繰り返し語っていた。実際、所属する大阪維新の会で、看板政策の大阪都構想の広報戦略を担う「吉村チーム」を率いていたときは、独断で物事を進めることはせず、「メンバーの意見に耳を傾けることにたけていた」（大阪市議）という。

トップダウン型の橋下氏に対し、協調型とされる吉村氏だが、2人の違いは自治体のト

ップに就任するまでの経歴も影響しているとみられる。橋下氏は人気タレントだった知名度を生かし、いきなり府知事に就任した。これに対して吉村氏は大阪市議の出身。市長就任前には約1年間、衆院議員も経験しており、「話し合いの手順の重要性は理解している」と語る。

このため、橋下氏とは衝突してきた他会派からも、「市政を前に進めたいという意欲は感じる」（公明党の市議団幹部）と好意的な声が広がっている。

一方で、2人には共通する部分も多い。橋下氏は早稲田大、吉村氏は九州大で学生生活を送ったが、ともに20代で難関の司法試験をパス。同じ弁護士を仕事に選び、法律事務所経営者の経験がある。橋下氏にとっては「共通言語で会話ができる存在で、とりわけ頼りにしていた」（橋下氏の側近）という。

また、2人とも高校時代にはラグビーに打ち込んでおり、ポジションは同じ左ウイング。3男4女の父親である橋下氏に対し、吉村氏も2女（双子）と1男を育てており、子どくさんという点も似通っている。

■吉村洋文新大阪市長の略歴 昭和50年生まれ。大阪府河内長野市出身。府立生野高、九州大法卒。平成?年に司法試験合格。弁護士を経て、23年4月に政界入り。大阪市議、衆院議員を経て、今年11月の市長選に橋下徹前市長の後継指名を受けて立候補。自民党推薦の元市議を20万票近い大差をつけて破った。12月から「大阪維新の会」政調会長。座右の銘は「意志あるところに道は開ける」。

投票率ワースト なにわの浪速区事情（上） 大阪日日新聞 2015年12月16日

2015年、大阪市民にとって市政の行方を選択する機会は3回あった。統一地方選挙の市議選（4月12日）、大阪都構想の住民投票（5月17日）、ダブル選の市長選（11月22日）だが、その投票率をめぐって市内ワーストは全て浪速区だった。

地元との接点を持たない層の多さが背景にある、と玉置賢司区長は話す。つまりワンルームマンションに入居する「寝に帰るだけ」の単身者の割合が高く、区民意識が薄いというわけだ。

2015年の投票率ワーストは浪速区。啓発活動に取り組む玉置賢司区長

■”単身”の適地

市域の中心部に位置する浪速区は、2キロ四方の小さなエリアに大動脈の市営地下鉄御堂筋線をはじめ堺筋線、四つ橋線の各駅やJR、私鉄の主要駅もある。隣接する西区や中央区と比べてワンルームマンションの家賃も割安なため、市外から入居する単身者にとっては「便利でハードルも低い」（玉置氏）という生活環境の好条件がそろっている。

実際、住民基本台帳によると人口6万2841人（15年3月31日現在）に対する過去1年間の転入者は1万421人、転出者は8122人を数え、約6分の1は流動したことになる。区の分析では5年以内に人口の約3分の2が入れ替わる現状もある。

投票に行くことだって「まちづくり」への参加のひとつ、と考える玉置氏は転入届を受け付ける際に区の広報紙「なでしこ」の配送を案内し、区民意識の醸成を試みているが、配送を断るケースが多いのが実態だ。

■逆転の発想

12月1日の区政会議。浪速区役所の担当者は区の花「ナデシコ」を冠にしていた広報紙の名称を「なにわ」に変更する方針を説明した。転入者が「なでしこ＝浪速区」と連想しづらいと判断したためだ。区民には「なにわ＝大阪」のイメージが強いため区の独自性



を出しにくいという指摘が上がったが、「認めてほしい」と押し切った玉置氏には考えがあった。

「なにわ」は大阪全体を指し、浪速区はそのど真ん中にある。大阪の中心の気持ちを持ってほしい。「なにわ」という通称を、同じ呼び名である浪速区の一体感創出に活用する逆転の発想である。特に若年層に、まちづくりの参画意識を持ってもらおうと、玉置氏が浪速区観光親善大使に迎えたのがE T-K I N Gリーダーのイトキンさん（36）だ。

浪速区大国町で共同生活を送り、メジャーデビューを果たしたイトキンさんたちに当時の思い出を歌った曲は多い。その一つが「NANIWA」だった。

投票率の低さは政治、行政をはじめ、まちづくりに対する住民の参画意識の低さに通じる。人口流動が激しく、近所付き合いの薄い浪速区に焦点を当て、地域コミュニティの形成を試みるキーマンの姿を追った。

投票率ワースト なにわの浪速区事情（中）

大阪日日新聞 2015年12月17日

大阪市浪速区の観光親善大使に就任したE T-K I N Gリーダーのイトキンさん（36）は、4月12日の統一地方選挙を前に区役所広報の紙面で玉置賢司区長と対談した際、こう提案した。

浪速区時代を「NANIWA」につづったイトキンさん

「若い人を巻き込んでいくメッセージの第1弾『選挙に行こうぜ』ってどうですか」。投票行動はまちづくりへの参画につながると呼び掛けた区長に対する提案だったが、そのメッセージは単なるリップサービスではなく実体験を基にしていた。

■感謝の気持ち

兵庫県出身のイトキンさんが浪速区大国町に移り住んだ理由は、音楽活動の拠点だった中央区心斎橋筋まで市営地下鉄御堂筋線で2駅という近さにあったが、2011年までの10年間を過ごした浪速区に愛着を抱き、当時の様子を「日記」のようにつづった曲は多い。

♪総本山 なにわ 総動員の仲間 我を男子に鍛えしものは 粋な街角なにわの荒野～。『NANIWA』は下積み生活のころに「町の人が遊んでくれた」思い出を盛り込んだ。全国デビューを果たした『愛しい人へ』は自分たちを支えてくれた新世界の人たちへの感謝を込めたものだ。

その地元への感謝の気持ちを実感する機会が今年3月の親善大使就任後、再び訪れた。ゲスト出演した10月8日の浪速区安全・安心まちづくり大会だ。登下校の見守り活動を通して永年勤続表彰を受ける人たちに「ありがたいもんやねんな」と感じた。脳裏に浮かんだのは1歳になる長女の姿だった。「子どもを守るのも親、まちを良くしていくのも親」と思うようになった。

■メリット

「選挙に行こうぜ」とメッセージを発信した統一地方選の市議選で、浪速区の投票率は35・63%と市全体を13・64ポイント下回った。その後の大阪都構想住民投票（5月17日）、市長選（11月22日）のいずれも10ポイント以上低い結果に終わった。「メッセージに固いイメージがあった。もっと言い方があるかもしれない。何で行かなあかんかを分かりやすく説明すれば、それがメリットになる」とはイトキンさんの自問自答である。

投票するメリットは何か。「じいちゃん、ばあちゃんを大切にしよう」「いい町をつくろう」。「そのために何があんねんといえ、選挙に行こうかとなる」。イトキンさんはいま、自身を鍛えてくれた浪速区の街並みを思い浮かべながら新たなメッセージを思案中だ。



■ご当地ヒーロー

大阪市浪速区のなんば住宅博展示場で12月12日にあったキャラクターショー。地球戦士ZEROS（ゼロス）がごみ怪人ゴミーラを相手に「ごみのポイ捨てをやめるんだ」と戦う姿を、親子連れが楽しんでいた。6歳の長男と一緒に見ていた西川恵さん（45）は「子ども向けにメッセージをしてくれる」と話した。

日本有数の電気街として知られる地元・日本橋の中古玩具買い取り販売店が運営するゼロスの正体は、普段は店員として働く青年「浪速人（なみはやと）」という設定だ。ご当地ヒーローとして掲げたキャッチフレーズは犯罪ゼロ、環境破壊ゼロ、公共マナー違反ゼロである。

そのゼロスを安全・安心まちづくりPR大使に迎えた浪速区役所は現在、落書きの消去に向けた機運の醸成に余念がない。企業のシャッターや駐車場のブロック塀への落書きが後を絶たない状況を踏まえ、個人・団体による消去活動の支援基準を緩和したところ、2014年度の申請は40件と前年度実績の5倍に増加。15年度も10月末時点で20件



を数える。浪速区役所が活動強化の手本にしたのが、割れた窓ガラスという秩序の乱れが犯罪を誘発する「割れ窓理論」に基づいて警察官を大量動員し、取り締まりを徹底したニューヨーク市の実践例だ。「落書きを放置すれば警戒の薄い町になり、車上荒らしが起きても誰も驚かない町に成り下がる」と玉置賢司区長は話す。

■処方箋求めて

1997年4月9日、敷津小学校の児童が通り魔に襲われ、尊い命を落とす事件があった。それ以降、登下校する子どもの安全を見守る動きが加速した経緯が浪速区にはあり、落書きの消去活動も「隙のな

い」町としての意思表示である。

地域が無関心なら犯罪が起きるといった観点は、まちづくりに対する住民の参画意識の必要性にも通じる。住民参画のバロメーターといえる選挙の投票率がワーストの現状は浪速区の懸案だけに、ゼロスも「選挙マスコットと一緒に何かできれば」と投票呼び掛けの啓発も思案する。

単身者が入居するワンルームマンションが立ち並び、人口流動が激しい住環境だけに投票率の向上は一朝一夕にいかないとはいえ、玉置氏は「処方箋が見つければ大阪市全体にフィードバックできる」と考えている。

施設利用者にプロの料理振る舞う

佐賀新聞 2015年12月19日



利用者が育てた野菜を使ったポトフを仕上げるシェフら＝有田町のあすなるの里

佐賀県内のホテルやレストランの西洋料理シェフが17日、有田町の障害者支援施設「あすなるの里」（岩永浩一施設長）のクリスマス会に合わせ、料理を振る舞った。施設の利用者は自分たちで作った玉ネギやジャガイモがたっぷり入った料理に思わず「おいしい」と声を上げた。

全日本司厨士会佐賀県本部（川原純一会長）が、会員

のボランティア意識を高めようと、10年前から同施設で腕を振るっている。

今回は川原会長ら11人が訪問。前日の仕事終わりに仕込んだ野菜を使い、豚肉と野菜のポトフや、サーモンのキノコクリーム仕立てなど4品約150人分を手際よく仕上げた。

クリスマスソングが流れる中でテーブルを囲んだ利用者は、彩りよく並べられた料理に舌鼓を打った。テーブルを回るシェフに「どれもおいしい」「ありがとう」と声を掛け、シェフも笑顔でこたえていた。

和太鼓プロ集団、東与賀小で演奏会

佐賀新聞 2015年12月19日



力強い演奏で児童を圧倒する「瑞宝太鼓」のメンバー＝佐賀市の東与賀小

知的障害者によるプロの和太鼓集団「瑞宝太鼓」のミニ演奏会が、佐賀市の東与賀小（北村勢津子校長）で開かれた。6年生96人が、雄壮に響く太鼓の音に耳を傾け、団員らがプロとして活動するまでの経歴などを聞いた。

瑞宝太鼓は社会福祉法人「南高愛隣会」（長崎県雲仙市）の就労継続支援A型事業として、14年前からプロ活動を開始した。国内外で年間約130公演をこなし、数々の受賞歴を持つ。

この日は団長の岩本友広さん（39）をはじめ、佐賀県出身の坂田一星さん（24）と森田祐司さん（25）が登場。長胴太鼓や桶胴太鼓など3種類の太鼓を操り、一糸乱れぬ力強い演奏を披露した。演奏の合間には、それぞれがプロになるまでの経緯を説明し、「ハンディを持つ人々に夢を与えたい」と語った。

障害者への偏見をなくそうと学校が企画し、今年で2年目。参加した光富七海さん（12）は「声や腕、足までピッタリそろっていて、一生懸命な努力が伝わった。3人の人生がこもった演奏だったと思う」と話していた。

アール・ブリュット展 19日開幕

佐賀新聞 2015年12月19日



19日に開幕するアール・ブリュット展。手前は澤田真一さん（滋賀県）の作品＝佐賀市の県立美術館4号展示室

既成の芸術概念にとらわれない自由な表現で知られる「アール・ブリュット展」が19日、佐賀市の県立美術館で開幕する。イタリアのベネチア・ビエンナーレで注目された澤田真一さん（滋賀県）ら国内外で活躍する作家15人が出品。カラフルで緻密なデザイン of 絵画や立体が並ぶ。1月17日まで。

フランス語で「生（き）の芸術」を意味するアール・ブリュット。正規の美術教育を受けていない人が自発的に創作した作品で、作家には障害者も少なくない。

会場には生物体のような造形をした澤田さんの陶器や、広告紙やセロハンテープで作った萩尾俊雄さん（福岡県）の“怪獣”、ぎっしりと漢字を埋め尽くした喜舎場（きしゃば）盛也さん（沖縄県）のペン画など個性あふれる約150点が並ぶ。

19日午後5時から県立美術館ホールで、アーティスト日比野克彦さんによる記念講演会も開かれる（残席のみ）。入場無料。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

